

高度医療人材養成拠点形成事業（高度な臨床・研究能力を有する医師養成） タイプA 取組の概要と推進委員会からの主なコメント

代 表 校 名 (連携大学 名)	東北大学
事 業 名	データサイエンスを活用した新たな医療を創出する医療人材育成拠点
事 業 責 任 者	東北大学理事・副学長(医療・共創戦略担当) 張替 秀郎
事 業 の 概 要	
新たな医療を創出する人材が求められている一方で、医療現場の現状は厳しく、日常診療に忙殺され、研究時間の確保が十分ではない状況にある。本事業では、AI 活用による徹底した負荷軽減がもたらす余力と時間をより良い医療の提供に資する研究に費やし、常に改善し続けるデータ駆動型 PDCA サイクルを介して、データサイエンスを活用した新たな医療を創出できる高度医療人材を養成・輩出する。具体的には、90 万人以上の診療録を構造化し利活用可能にした医療情報データベースを構築するとともに、バイオバンクが持つ 39,000 件以上の生体試料・ゲノム情報等を統合化し、個別化医療をさらに進化させたゲノム層別化医療の開拓を行い、新規医療の開発に取り組む。臨床研究では生成系 AI を活用した研究計画書等の自動作成、研究支援者の増員により研究者の負荷軽減に取り組む。日常的にリアルワールドデータからのエビデンス構築を促すことで日常診療の最適化に貢献する。	
推進委員会からの主なコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等	
○医療情報データベースを構築し、基礎と臨床を融合したオミックス解析をはじめ、RWD と生体試料、ゲノム情報を利活用可能な形で連携させるなど、斬新であり高く評価する。 ○生活習慣病と難病・希少疾患に絞っており、CRIETO の設置、橋渡し研究の実績なども評価できる。 ○研究手技動画のアーカイブ化、診療録情報等から作成した教育用レジストリデータを医学生や大学院生にフィードバック、また、生成 AI による倫理審査書類の補助等のデータサイエンスを活用する点などが新規性が高く、成果が期待される。 ○データサイエンスの具体的な学修内容が示され、実効性が期待できる。 ○研究力強化ワーキングを設け、基礎と臨床の交流を月 1 回実施していることは評価できる。 ○研究活動時間が週 5 時間以下の助教を 50%から 20%に減少させるという点は、研究活動時間の測定方法をどのようにするかが焦点とも思えるが、アウトプットに依存しない斬新な方法である。 ○研究論文数など研究面、診療参加型臨床実習などの達成目標は具体的であり評価できる。 ○シミュレーターで代用した手技の質担保、課題克服に向けた AI 等を活用した実践的医行為習得、医行為認証制度の確立や学外医療機関での医行為実践の促進は、期待できる対応策である。 ○臨床研究センターにおける ASU、OBL など設置、創薬戦略推進機構の新設、RWD を活用した臨床開発環境の整備に着手しており、企業や他大学を牽引することが期待できる。 ○効果的なタスクシフト・シェアの実現や医療 DX を活用した医師の負担軽減について明記されており、実効性のある取組が期待できる。 ○副学長、医学部長も高度医療人材拠点連絡室の担当者を含み、運営体制が強化されている。 ○①資金、②人材、③組織の各方面から事業継続について検討されている点が優れている。 ●TA・RA、SA の具体的な人数を示すとともに人材養成における関わりを明確にすることが望ましい。 ●申請書類作成補助 AI の開発と若手研究者の研究力向上の結びつきを明らかにしてほしい。 ●クリニカル・スキルスラボに教育経験豊富な医員を教官として転換配置する予定だが、一人のコーディネーターに負担が集中することのないよう、教育支援方策の充実が望ましい。 ●例えば初年度にキックオフを行うなど、成果の発信について一層の取組を求めたい。 ●事業継続における人材について具体的な説明と教育事業の計画の充実を求めたい。	